

# 第1部 1章 夏休みの学習

夏休みという、長い自由な休みの中で、中学生は、どのように学習をしているのだろうか。今回の調査では、次のような観点から、夏休みの学習の実態を探った。

## (1) 夏休みの学習

### 1 学習の頻度

生徒たちは、夏休みにどれくらい勉強をしたのだろうか。今回の調査では、①毎日したか、②平均的な学習時間、③時間帯、についてたずねた。

まず、学習の頻度についてたずねた結果が、図I-1である。

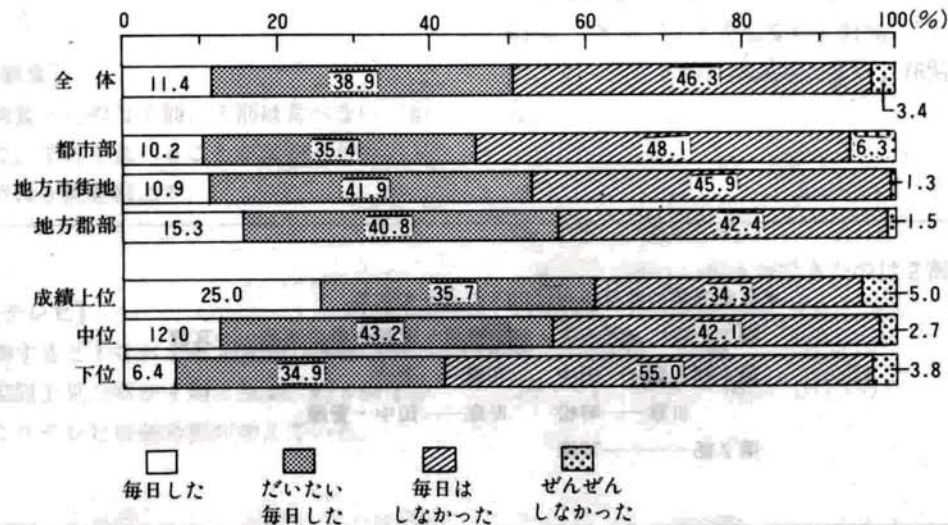
「ぜんぜんしなかった」者は3.4%と少ない。「毎日した」も11.4%と少ないが、「だいたい毎日した」と合わせると50.3%となる。性別では大きな差はないが、「毎日した」と「だいたい毎日した」を合わせた場合、女子は53.9%、男子で47.0%と、女子のほうが若干多い。

夏休みとはいえ2人に1人が、ほぼ毎日机に向かっていくことになる。

地域別にみると、やはり「毎日した」+「だいたい毎日した」の場合、地方郡部(56.1%)、地方市街地(52.8%)、都市部(45.6%)の順で、少し地方のほうが、コツコツと勉強する傾向にある。

成績別にみると、「毎日した」の比率は、上位者25.0%、中位者12.0%、下位者6.4%である。成績上位者で、毎日確実に学習した者が多い。

〔図I-1〕 勉強の頻度(全体+地域別+成績別)



### 2 平均的な学習時間

夏休みのごく普通の日に、どのくらいの時間勉強したのだろうか。図I-2に、学習時間の分布と、その平均時間を示した。平均時間は、「ぜんぜんしなかった」→0、「30分ぐらい」→0.5、……「3時間以上」→3、として概算したものである。(3時間以上の扱いが問題だが、3時間以上勉強した者が1割程度なので、この代表値でおおむね妥当と考えられる。)

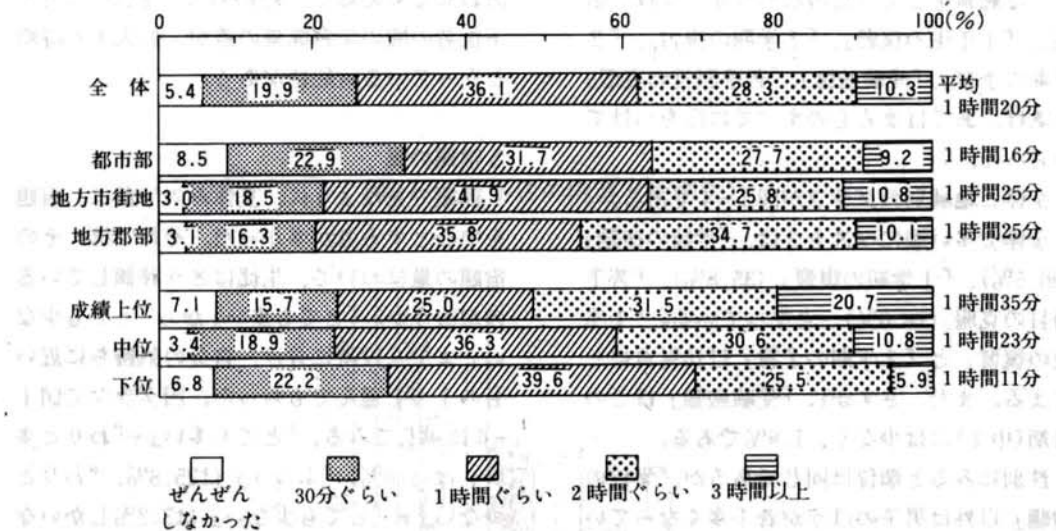
全体で平均1時間20分。学期中の平均時間が2時間6分(日本放送出版協会刊、「日本人

の生活時間」1985年度版より)であるから、夏休みの勉強時間のほうが、学期中より46分短いことになる。

都市部での平均時間は、1時間16分。地方市街地・郡部で、1時間25分、とやや地方のほうが長く勉強している。

成績別にみると大きな差がある。上位者で1時間35分、中位者で1時間23分、下位者で1時間11分の平均時間となり、上位者と下位者の差は24分である。

〔図I-2〕 一日の学習時間(全体+地域別+成績別)



### 3 学習の時間帯

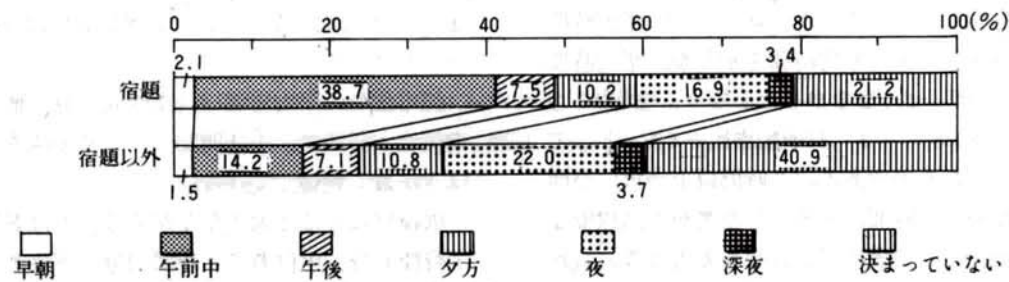
宿題とそれ以外について、学習の時間帯をたずねた。図I-3のグラフを見ていただきたい。宿題に関しては、「早朝・午前中」40.8%、「午後・夕方」17.7%、「夜・深夜」20.3%、「決まっていない」は21.2%であった。宿題以外に関しては、「早朝・午前中」15.7%、「午後・夕方」17.9%、「夜・深夜」25.7%、

「決まっていない」40.9%となっている。宿題以外の勉強に比べ、宿題のほうが決まった時間帯に勉強している。

成績別にみると、下位者は、「決まっていない」者が多い。宿題以外の勉強をする時間が決まっているのは、上位者に多く、特に、「午前中」とする者が多い。



〔図 I-3〕 学習の時間帯



4 学習の内容

「学習の頻度」、「平均的な学習時間」、「学習の時間帯」をみてきたが、では具体的にどのような勉強をしていたのだろうか。「学校の宿題」、「1年生の復習」、「1学期の復習」、「2学期の予習」、「受験勉強」、「苦手科目の克服」をあげ、あてはまるものすべてに○をつけてもらった。

全体と地域別のグラフが図 I-4 である。

全体で多い順にベスト 3 は、「学校の宿題」(96.5%)、「1学期の復習」(35.8%)、「苦手科目の克服」(28.0%)、となっている。「1年生の復習」と「2学期の予習」は10%台にとどまる。また、さすがに「受験勉強」はこの時期(中2)には少なく、1.9%である。

性別にみると順位は同じであるが、「学校の宿題」以外は男子のほうが若干多くなっている。大多数の生徒にとって夏休みの学習は、もっぱら宿題中心である。

地域別にみると、都市部で、「2学期の予習」が高い数値を示している。地方郡部では、「1学期の復習」、「1年生の復習」、「2学期の予習」が他の地域に比べると低く、学校の宿題中心の夏休みであったものと推測される。

成績別に差のあった項目を示したのが、図 I-5 である。「学校の宿題」と「受験勉強」については、成績による差がほとんどなかった。図にあげたすべてについて、上位者が、

中・下位者を大きく上回っており、中・下位者の差はあまりない。先にあげた勉強時間とあわせて考えると、夏休みは、上位者と、中・下位者の間の学習成果の差が、拡大する時期となっている可能性がある。

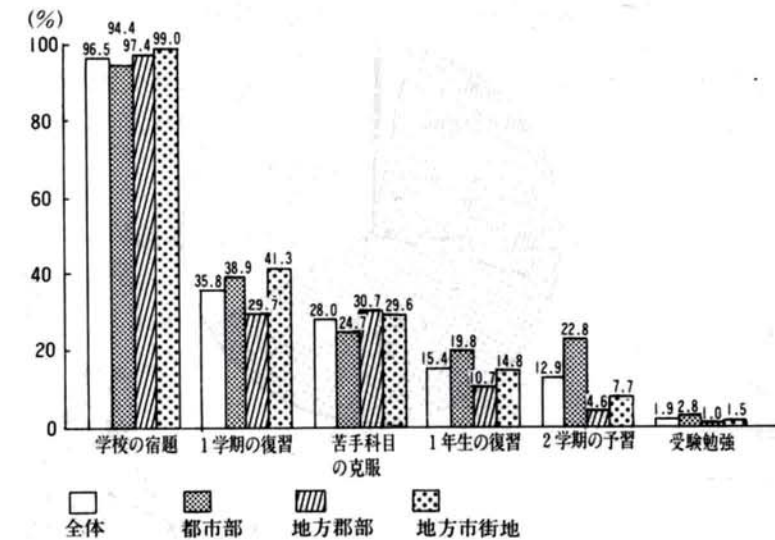
5 宿題の量

前項で見たように、夏休みの学習は、宿題を中心とする者が多かった。それでは、その宿題の量について、生徒はどう評価しているのだろうか。「とても多い」から「とても少ない」まで5段階に分け、自分の気持ちに近いもの1つを選んでもらった。円グラフで図 I-6 に示してみる。「とても多い」+「わりと多い」は71.0%、「ふつう」は25.8%、「わりと少ない」+「とても少ない」は3.2%しかない。宿題量を主観的に「多い」と感じる者が多数派である。性別による差はあまりない。

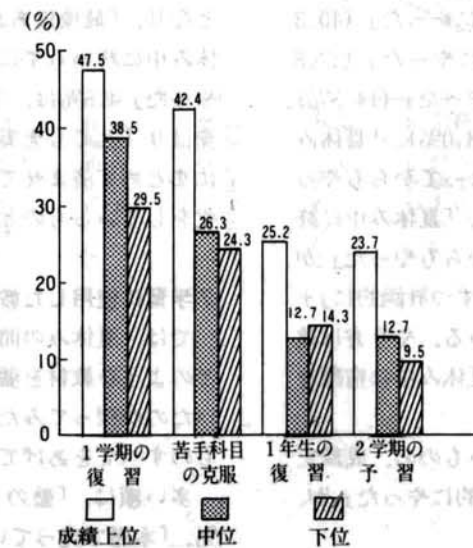
地域別にみると、「とても多い」+「わりと多い」と考えた者は、都市部で67.7%、地方市街地で79.8%、地方郡部で60.0%となっている。地方市街地で、「多い」とする回答が多いが、それがどれだけ実際の宿題の量を反映しているのかは定かでない。

成績別にみると、上位者ほど、「多い」と感じる者が少なく、下位者ほど多い傾向にある。

〔図 I-4〕 学習の内容 (全体+地域別)

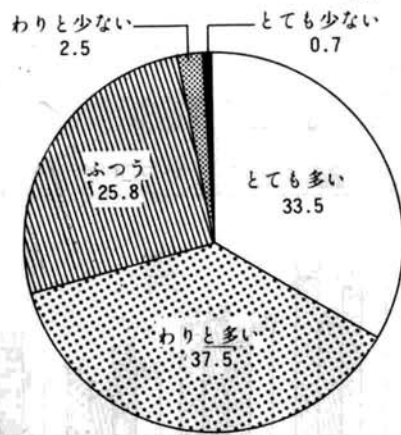


〔図 I-5〕 学習の内容 (成績別)





〔図 I-6〕 夏休みの宿題の量 (%)



### 6 宿題の消化方法

では、その宿題をどのように生徒は消化したのだろうか。やり方を5種類に分け、一番近いもの1つを選んでもらった。

その結果が、図 I-7 である。

多い順に、「気がむいた時にやった」(40.3%)、「毎日少しずつ計画的にやった」(22.8%)、「最初にまとめて全部やった」(14.5%)、「最後にあわててやった」(13.0%)、「夏休み中に終わらずに、学校が始まってからもやった」(9.4%)、となっている。「夏休み中に終わらずに、学校が始まってからもやった」が、1割近くいるが、「毎日少しずつ計画的に」+「最初にまとめて」が4割もいる。やり方は違っても、9割以上の生徒は夏休み中に宿題を終わらせている。

属性別には顕著な差はないものの、成績上位者で、「毎日少しずつ計画的にやった」が、多い傾向にある。

宿題の消化のし方と、全体としてみた場合の夏休みの「充実感」とは、相関があるのだろうか。IV章「全体として」で述べることになるが、ここではこの夏休みを振り返り、「とても充実していた」と答えた生徒だけをピックアップし、この項の数値の多い順にあげてみ

る。一番は「最初にまとめて全部やった」で、33.3%もあった。次の「毎日少しずつ計画的にやった」も28.8%あり、全体の数値(22.8%)より多い。「気がむいた時にやった」は25.8%となり、「最後にあわててやった」7.6%と「夏休み中に終わらずに、学校が始まってからもやった」4.5%は、全体より低くなっている。やはり「とても充実していた」生徒は、最初にまとめて済ませてしまうなど、計画的な消化をしているものと考えられる。

### 7 学習に使用した教材

では、夏休みの間、学校の教科書以外で、どのような教材を個人的に使って、学習していたのか探ってみた。5種類あげ、使用したものすべてをあげてもらった。

多い順に、「塾のテキスト・問題集」35.2%、「本屋で売っている参考書」34.0%、「本屋で売っている問題集」29.4%、「トレーニングペーパーなど、教材を自宅に届けてくれるもの」22.2%、「通信教育のテキスト」13.4%となる。

これらの利用率は、地域によって大きく異なる。都市部で1位は、「塾のテキスト・問題

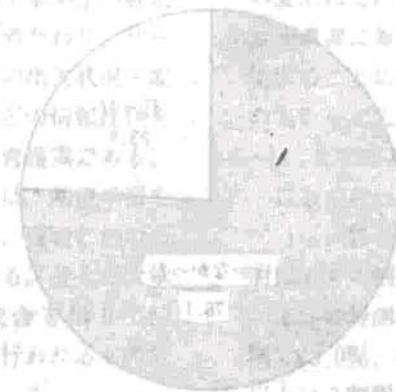
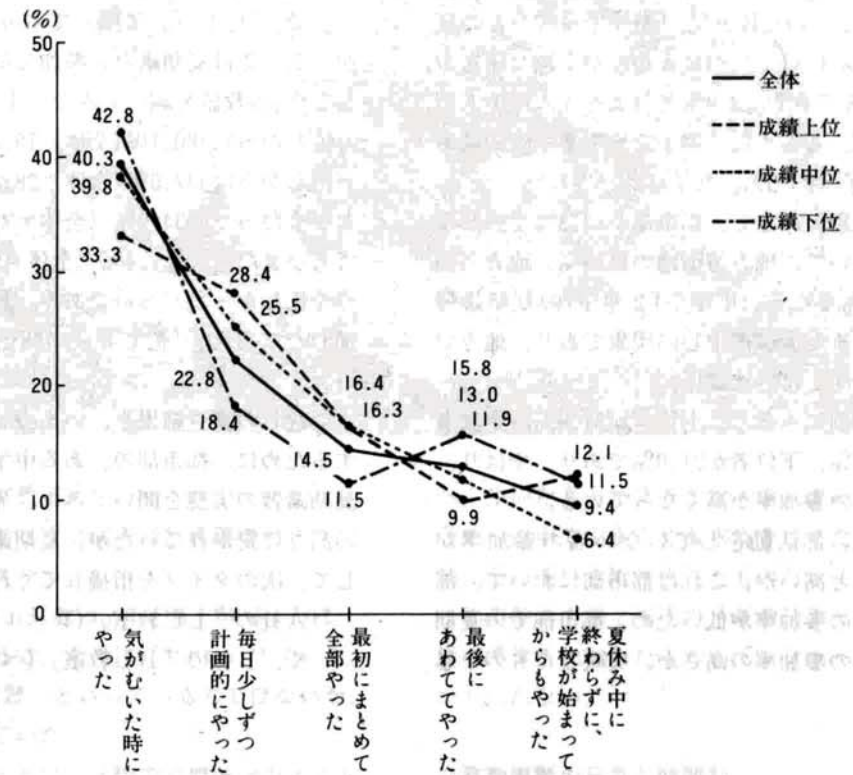
集」で54.1%と半数以上を占めている。通塾率の高いことの反映である。

地方市街地では、「トレーニングペーパーなど、教材を自宅に届けてくれるもの」が1位で、31.6%と、3人に1人の割合である。

また、地方郡部では、「本屋で売っている参考書」が44.6%と多い。

成績別にみると、「トレーニングペーパーなど、教材を自宅に届けてくれるもの」で、下位者が少ない(下位者=15.2%、上位者=29.5%)。

〔図 I-7〕 宿題のやり方 (全体+成績別)





## (2) 夏期講習

### 1 夏期講習の参加率

さてこの節では、学校外学習機関の1つ、「夏期講習」にスポットを当て、その参加率・日数・動機・評価を聞いてみた。

まず、この夏休みに、「塾や予備校などの夏期講習」に行ったかどうかをたずねた結果が、図I-8である。23.9%とおよそ4人に1人が「行った」と答えた。男子でやや多い傾向にある(男子=25.3%、女子=22.5%)。

地域別にみると、都市部が44.3%で断然多い。続いて、地方市街地の11.8%、地方郡部の2.6%となる。中学生(2年生)の夏期講習は、いまだ大都市中心の現象であり、地方では一般的とはいえない。

成績別にみると、上位者が31.8%、中位者が23.8%、下位者が21.0%であり、やはり、上位者の参加率が高くなっている。

また、部活動をしていない者の参加率が32.8%と高いが、これは都市部において、部活動への参加率が低いため、都市部での夏期講習への参加率の高さが、反映したものと思

われる。

夏期講習に参加したことにより、この夏休みは忙しくなっただろうか。IV章「全体として」で、「忙しさ」に関して取り上げているが、ここでは夏期講習に参加した生徒の「忙しさ度」の数値を調べてみた。すると、「とても忙しかった」20.1%(全体=15.3%)、「わりと忙しかった」37.6%(全体=38.2%)、「わりとひまだった」34.9%(全体=37.5%)、「とてもひまだった」7.4%(全体=9.0%)で、やや忙しかったくらいである。夏期講習に参加したことと、「忙しさ」の関連はあまりない。

これらの調査結果を、いま少し詳しく解釈するために、都市部の、ある中学校教員に、夏期講習の実態を聞いてみた。先生は参加率の高さに驚かれていたが、夏期講習の種類として、次のタイプを指摘してくれた。

- A社の「LU教室」(レベルアップ教室)
- や、B社の「BL教室」(ベーシック・ラ

ーニング教室)

- C社、もしくは個人経営の塾での「サマー・スクール」

そして、「LU教室」や「BL教室」のほうは少数の生徒で、大半は「サマー・スクール」を、「夏期講習」としているのではないかと述べられていた。

A社、B社とは、学校での標準学力テストや、公開模試をしている会社で、公立中学校を通して、「LU教室」や「BL教室」の募集案内をしている。業者ではそのかわり、サービスとして中学校へ、参加者の出欠状況・成績・生徒1人ひとりの特徴などの情報提供をしてくれる、学校密着型の教育産業である。

「LU教室」・「BL教室」とは、基礎学習を中心とした復習型の講習会で、現状の能力のレベルアップを目的としている。近くの大学もしくは私立高校などの校舎を借りて、20~30名程度のクラス編成で行われるものである。

「サマー・スクール」は、軽井沢や伊豆など

へ、生徒たちを泊まりがけで連れていく勉強会で、途中で山歩きや海水浴をさせたりし、勉強会に遊びも取り入れたものといえる。

都市部の中学2年生の「夏期講習」は、旅行の感覚も加味した1つの「レジャー」なのかもしれない。

### 2 夏期講習の日数と時間数

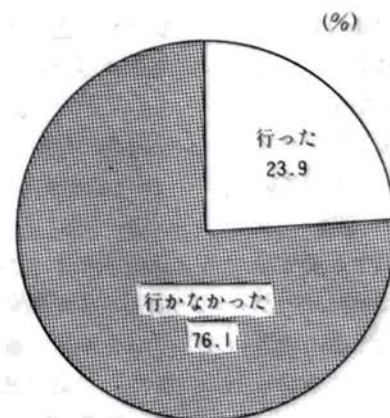
では、何日間ぐらいで、1日何時間ぐらいの夏期講習だったのだろうか。この項以降は、夏期講習に参加した生徒のみを対象として分析することにする。夏期講習の日数と時間数の実数を記入してもらい、表にしたのが表I-1、2である。

日数で数値の一番多いのは、6~10日間で35.1%、11~15日間は20.4%であるが、16日間以上も4割近くと多い。

1日の時間数でみると、一番多いのは3時間で43.0%、次は2時間の28.0%で、4時間以上は2割程度である。

平均値でみると、夏期講習に通った日数は、

【図I-8】夏期講習への参加率





全体で15日間、1日に勉強した時間数は、全体で3時間となる。属性別に差はない。

夏休みの半分近く、夏期講習に通い、1日3時間、勉強しているのである。

### 3 夏期講習参加の動機

夏期講習へは、どうして参加しようと思ったのだろうか。「自分から行こうと思ったから」、「友だちが行くから」、「親に言われたから」、「先生に勧められたから」、「ただなんとなく」

なく、の5種類をあげ、自分の気持ちに近い1つを選んでもらった。全体・男女別・成績別に示したのが、図I-9である。

「自分から行こうと思ったから」48.8%、「親に言われたから」24.2%、の2つの理由が多い。「友だちが行くから」、「先生に勧められたから」、「ただなんとなく」は1割程度と少ない。

「自分から行こうと思ったから」は、女子のほうが多く、「親に言われたから」は、男子の

〔表I-1〕 夏期講習に通った日数 (全体+男女別+成績別と平均)

日数	全体	男子	女子	上位	中位	下位
3~5日間	6.2	5.4	7.1	2.6	5.3	9.1
6~10 "	35.1	35.7	34.3	41.0	30.5	37.7
11~15 "	20.4	19.6	21.2	12.8	27.4	15.6
16~20 "	19.9	22.3	17.2	23.1	20.0	18.2
21 " ~	18.5	17.0	20.2	20.5	16.8	19.5

(%)

平均	全体	男子	女子	上位	中位	下位
平均	15.1	15.1	15.2	15.5	15.2	14.8

(日数)

〔表I-2〕 夏期講習で一日に勉強した時間数 (全体+男女別+成績別と平均)

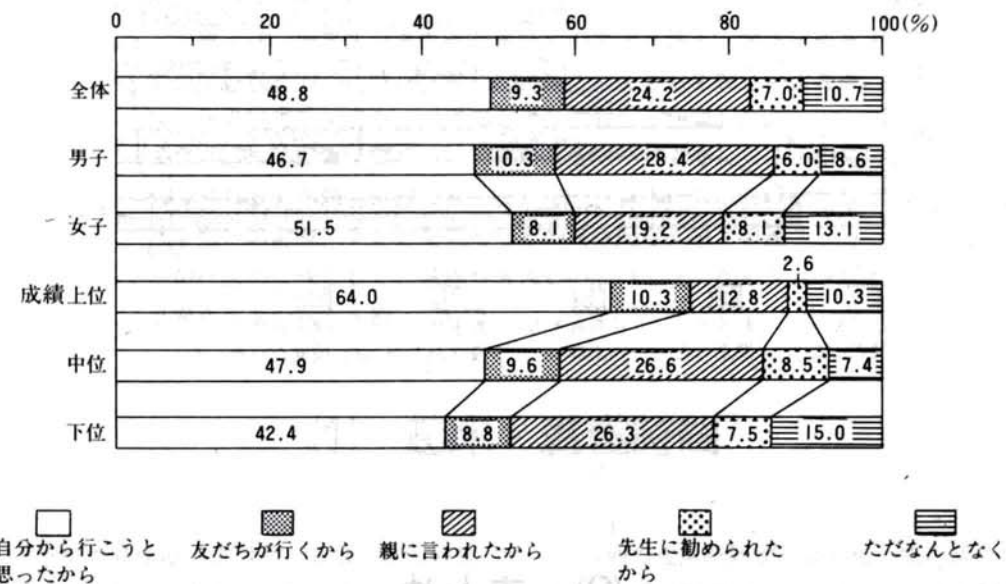
時間数	全体	男子	女子	上位	中位	下位
1 時間	7.5	8.8	6.0	10.5	6.2	7.7
2 "	28.0	26.3	30.0	26.3	26.8	30.8
3 "	43.0	40.4	46.0	50.0	39.2	43.6
4 "	12.1	14.0	10.0	2.6	17.5	10.3
5 "	4.7	4.4	5.0	7.9	6.2	1.3
6 " ~	4.7	6.1	3.0	2.6	4.1	6.4

(%)

(時間)

平均	全体	男子	女子	上位	中位	下位
平均	3:00	3:00	2:54	2:48	3:06	3:00

〔図I-9〕 夏期講習参加の動機 (全体+男女別+成績別)



ほうが多い。これは、男子を子どもにもつ親のほうが、勉強のでき・不得きに関する意識が高い(教育期待が大きい)ためかもしれない。

また、成績別にみると、「自分から行こうと思ったから」が、上位者で多く(64.0%)、「親に言われたから」は、中・下位者で多い。「先生に勧められたから」は、上位者で2.6%と低いにもかかわらず、中・下位者では、1割近くいる。中・下位者では周りから勧められるケースが、上位者に比べかなり多い傾向がある。

### 4 夏期講習への評価

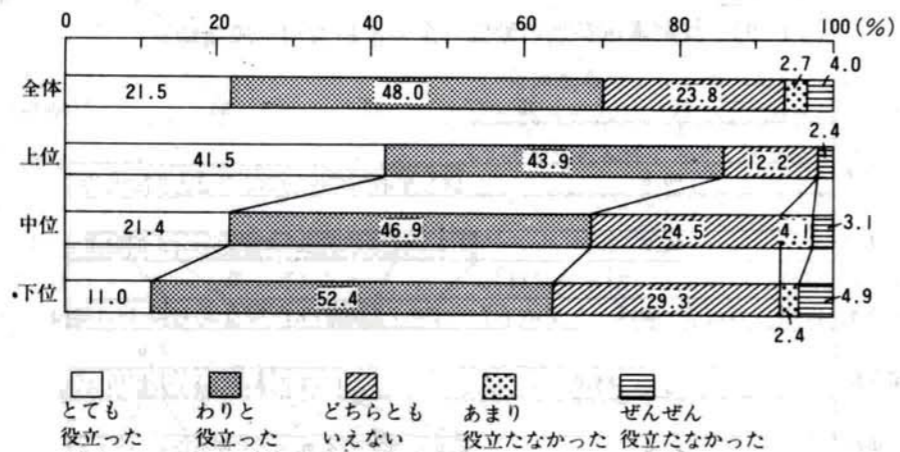
では今まで述べてきた夏期講習は、生徒の

役に立ったのだろうか。「とても役立った」から「ぜんぜん役立たなかった」まで、5段階で評価してもらった。全体と成績別のグラフを図I-10に示した。

「とても」+「わりと」役に立ったとする者が69.5%、とかなり高い数値を示している。「どちらともいえない」が23.8%、「あまり」+「ぜんぜん」役立たなかったとする者は、6.7%にすぎない。

成績別にみると、「とても」と「わりと」役に立ったをプラスした場合、上位者で85.4%、中位者で68.3%、下位者で63.4%と、上位者で役に立ったと評価する者が、かなり多くなっている。

〔図 I-10〕 夏期講習の役立ち度 (全体+成績別)



### (3) まとめ

・夏休み「毎日勉強した」は1割程度。しかし、「だいたい毎日した」をプラスすると、半数に達する。

・夏休みの平均学習時間は、1時間20分。これは、学期中の平均時間より、46分も短い。

・夏休みの学習内容は、宿題中心。その他の勉強では、成績上位者の数値が高く、中・下位者との差は、夏休みに拡大する可能性がある。

・宿題の量に関しては、7割が多いと答えた。

・教科書以外の教材では、「塾のテキスト・問題集」がトップで、都市部では、半数以上の生徒が使っている。

・夏期講習へは、2割以上の生徒が参加し、都市部では4.5割となる。その平均日数は15日間。1日の平均時間は、3時間である。

・夏期講習参加への動機は、「自分から行こうと思ったから」が、半数を占める。またその評価は、「とても」+「わりと」役立ったとする者が、7割に達する。